

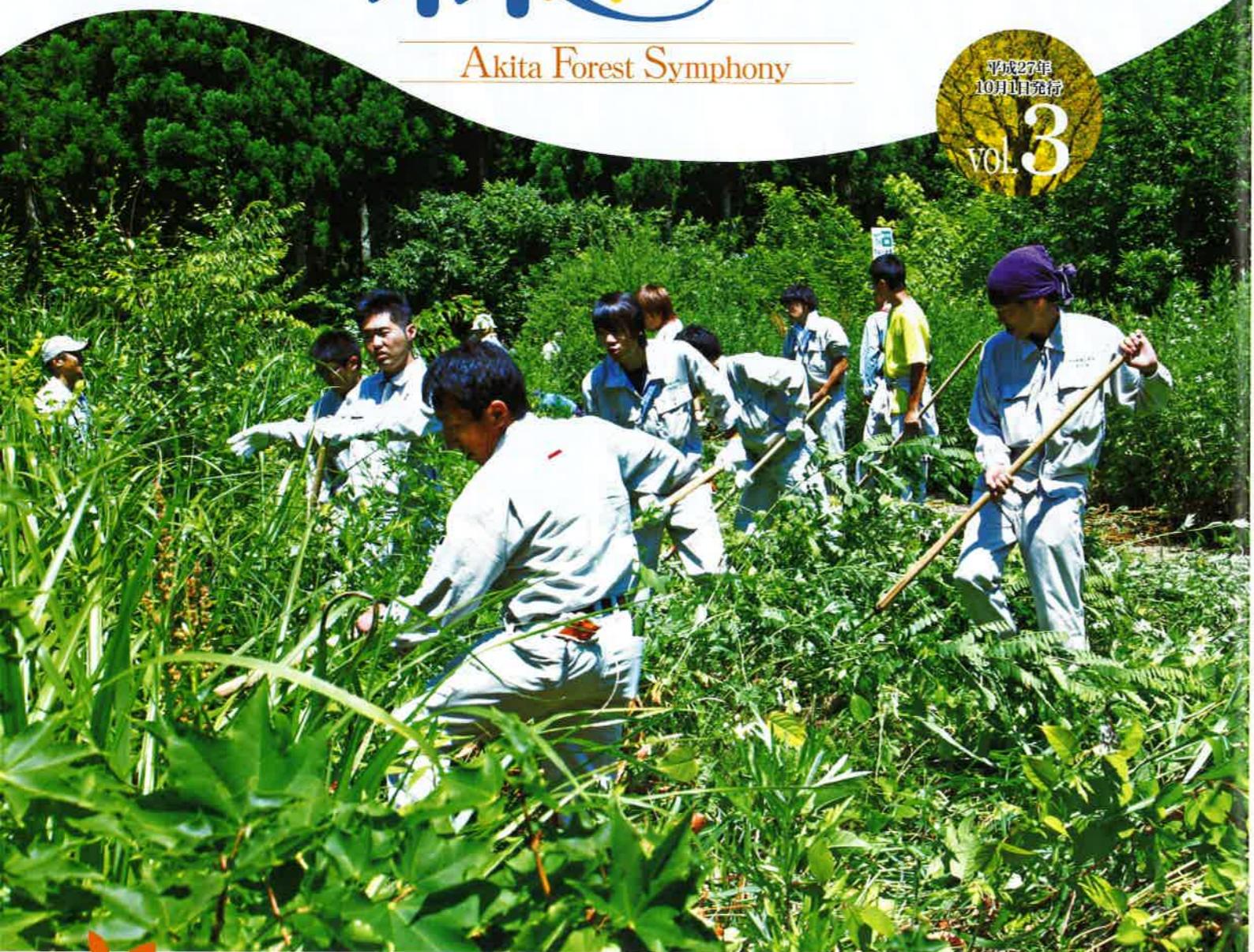
森を渡る風のささやき・渓流のせせらぎ・野鳥のさえずり・そして森に集う人々の声

・森林ボランティア情報誌

あきた森のシンフォニー

Akita Forest Symphony

平成27年
10月1日発行
vol.3



●表紙について●

2015年7月12日(日)「2015 あきた水と緑の森林祭」が、2008年に全国植樹祭の会場となった北秋田市上杉の県立北欧の杜公園で開催、全県から1,000人が参加し、当時植樹された木々の周りの刈り払い作業を行った。この日は、今年開講した秋田林業大学校の学生も地域貢献活動(実習)の一環として参加、吹き出す汗を拭いながら懸命に鎌を振るった。

CONTENTS

特集／森に集う仲間たち—2

中野哲夫さんと森をつくる仲間たち

みんなで行動 森づくり—6

森づくり税 2015活動報告

ふれあいの森—9

緑とともに生きる《緑のムラ》—12

鶴養

インフォメーション—14

頑張る森林ボランティア—16

本荘海岸林を守る会

あきた森のシンフォニー

vol.3

平成27年10月1日発行
編集・発行／あきた森づくり活動サポートセンター／愛称：モリエールあきた

〒019-2611 秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4 プラザクリプトン内
TEL 018-882-5570 FAX 018-882-5571

印刷／有限会社パレア

頑張る森林ボランティア



海岸林を守り 里山を守る

本荘海岸林を守る会 会長 保科 恵一

先人の努力で数十万本の松が植林してきた歴史がある由利本荘市の海岸松林。松くい虫被害で壊滅した松林を再生育成させたため、「本荘海岸林を守る会」を平成22年に設立しました。当初の活動は主に、東北森林管理局由利森林管理署管内で、地域住民と松林の育成を行っていました。松林の育成と言つても、天然更新で繁茂した松を間引いてやつたり、一部植林を行いましたが、植林した松のほとんどが枯れたり、せっかく育った松を下刈の際に切つてしまふなど失敗を重ねながらも試行錯誤を繰り返し、施業技術を身につけていく素人集団です。



海岸林保全活動風景

植林された歴史がある由利本荘市の海岸松林。松くい虫被害で壊滅した松林を再生育成させたため、「本荘海岸林を守る会」を平成22年に設立しました。当初の活動は主に、東北森林管理局由利森林管理署管内で、地域住民と松林の育成を行つてきました。

松林の育成と言つても、天然更新で繁茂した松を間引いてやつたり、一部植林を行いましたが、植林した松のほとんどが枯れたり、せっかく育った松を下刈の際に切つてしまふなど失敗を重ねながらも試行錯誤を繰り返し、施業技術を身につけていく素人集団です。

ました。最初に植えた松も、最近では200ほどに育つて活動が目に見えるようになると、会員にも達成感が出てきました。

もう一つの活動は、地域の団体と共同でクリーンアップ活動をしています。かつて、石川善兵衛が植林した田尻地区の砂防備林や、水林地内の散策公園内などあまり人目に付かない所は「ミミの不法投棄場所となりやすく、そんな所でこそコソコソと活動を行っています。」これは景観保全と地球温暖化防止のための活動として「思いは地球、活動は足元から」との考え方からです。

森林山村多面的機能発揮対策事業 平成25年から、林野庁の「森林山村多面的機能発揮対策事業補助金を活用し、竹林や里山の整備にも取り組んでいます。森林所有者と協定を結び、地元住民と一緒に活動して地域の活性化や子供たちとの交流を実施しています。秋田県が北限と言われる孟宗竹ですが、その繁殖力は目覚ましくほんどうが放置されているのが現状です。会員の多くは、「山に入る」とや竹伐るのは初めてでしたが、県外への研修などを行い、竹の除伐方法や炭作りなどの活用方法を学び、他団体と協働するなど実践活動へと結びついています。

地元の「」とを学ぶ 我々の会は、平成26年に文化財指定を受けた旧鮎川小学校を拠点で、地域住民とともに竹林整備を行っていますが、今年度は初めて由利小学校の生徒と一緒に「竹林の整備と竹の利活用」を学ぶ教室を開催しました。

これは、「地元の「」とを学ぶ」授業の一環で、子供たちも竹林に入ることで、地元の自然を満喫し竹の活用などを学んだ1日となりました。「仕事」として見ると効率は悪いのですが、ボランティア活動はタケノコは採るな」と言われても毎年数百本のタケノコが収穫され、その一部は現地の山で炭火で丸焼きやみそ汁、煮つけとなつて会員の胃袋の收まります。

「仕事」として見ると効率は悪いのですが、ボランティア活動は自らが楽しくないと続きません。活動を通じて、教えられる事はたくさんあります。これからも、地域のみんなと楽しみながら、森や自然の恩恵について学び、「持続可能な開発教育」について一緒に考えていいきたいと思っています。

楽ししながら活動、そして次へのステップ 現在の会員数は徐々に増えています。48名になりました。会員の中には林業のベテランもいて作業のアド

地元の「」とを学ぶ 我々の会は、平成26年に文化財指定を受けた旧鮎川小学校を拠点で、地域住民とともに竹林整備を行っていますが、今年度は初めて由利小学校の生徒と一緒に「竹林の整備と竹の利活用」を学ぶ教室を開催しました。

これは、「地元の「」とを学ぶ」授業の一環で、子供たちも竹林に入ることで、地元の自然を満喫し竹の活用などを学んだ1日となりました。「仕事」として見ると効率は悪いのですが、ボランティア活動はタケノコは採るな」と言われても毎年数百本のタケノコが収穫され、その一部は現地の山で炭火で丸焼きやみそ汁、煮つけとなつて会員の胃袋の收まります。

「仕事」として見ると効率は悪いのですが、ボランティア活動は自らが楽しくないと続きません。活動を通じて、教えられる事はたくさんあります。これからも、地域のみんなと楽しみながら、森や自然の恩恵について学び、「持続可能な開発教育」について一緒に考えていいきたいと思っています。



会員みんなで荒れた竹林を整備しました

中野哲夫さんと 森をつくる仲間たち

結び葉—森が春から初夏に移ろうころ、茂った木々の葉が重なり合う。木の葉を通して陽光を浴び、野鳥のさえずりを聞きながら森を散策するのが、中野哲夫さんの大きな楽しみの一つである。

緑の風に包まれて、草花を観察していると携帯電話が鳴る。

「あきた森づくり活動サポートセ

ンターから、森の案内人協議会へ講師派遣の依頼がありました。内容

は、新たな森の案内人を育成する講習会で、森林・林業体験活動の企画・運営に関する講義と実技のアドバイザーです。中野さん、お願いできま

すか。」事務局の三浦綠さんからだ。

几帳面に記された手帳をめくり、

その日の予定を確認、「良いですよ。」

快く引き受ける。

講習会当日、にかほ市平沢の自宅を出発、会場のプラザクリプトンまで5kmを越える道のりだ。森林ボランティア活動や森の案内人として県内各地を走り回つたが、指導依頼の多い頃は、こういった活動に費やした走行距離は、1年間で5kmに達したそうだ。

1933年生まれの中野哲夫さんは、秋田県森の案内人として、県民の方々に森林・林業の大切さを理解し急成長し、工場は活況を呈していたという。

中野さんは、セラミック部門に所属、当時は、TDKにとってまだ新しい製品で業績も今ひとつ、「主要部門ではないので、工場内では引け目を感じていたなあ。」と回顧する。定年間近には、TDK研修センターの所長として、中堅社員や毎年100名を超える新入社員への教育に熱意を注いできた。

TDK社友会環境同好会発足

TDK社友会は、TDKのOB会組織で、数多くの趣味の会を設けている。ある年の社友会役員会の席上、当時秋田本部長の村上甚一さんが、「TDKは、地域にお世話になつた。その恩返しをしたいものだ。今までの趣味の会ではなくて、社会に役立つ同好会を結成しよう。」と発言、その場に出席していた中野さんは、「それならば環境だ。」と即座に応えたそうだ。「中野さん、幹事になつて会を

立ち上げてくれ。」と村上さん。中野さんは、会員10名を集め、「環境」をキーワードとした環境同好会を設立したのが2003年である。

中野さんは、横手市(旧山内村)南郷に生まれた。奥羽山脈の山懷に位置するこの地は、県内でも有数な豪雪地帯だ。農家が多くた山内村では、酒蔵が冬場の働き口となり、古くから「山内杜氏」として、全国の酒蔵で活躍していたことで知られている。

中野さんは、美入野高校(現横手高)TDKとともに歩んできた中野さんとともに歩んできた中野さん



松葉撒き作業をする中野さん



1982年、秋田県内で初めて被害が確認された松くい虫による松枯れは、瞬く間に秋田の海岸林に拡がり、そして内陸へと侵入し、所によつては「爆弾を落とされたよう」な無残な有様を呈していた。飛砂や季節風から地域を守つてきた海岸林・行政や関係機関が懸命に被害木の伐採や防除対策に取り組んでいたが、なかなか被害を食い止めることができなかつた。

てもらうための活動を精力的に行ってきた。今年で82歳になる今でも要請があれば県内どこでも駆け付ける。そして森の働きや森の不思議などを参加者に伝える。その原動力は何なのか、今回は、中野さんの森づくりに向かう姿勢や、その考え方などを伺うとともに、一緒に活動する仲間たちからお話をうかがつた。





みんなで行動 森づくり

鹿角市

未来の森をみんなで造ろう 《5月20日》

場 所 鹿角市「大湯ストーンサークル」

実施主体 鹿角市、鹿角市緑化推進委員会、米代東部森林管理署

約4,000年前に縄文文化の栄えた「大湯ストーンサークル」、今回この地での植樹祭は9回目を数えます。5月としては気温の上がったこの日、市内の小・中学校の生徒代表や市民など約200名が参加しました。

今回の植樹祭テーマ『今植えた小さな芽が大きな未来』のように、小さな木を育てて森を造るために、ブナ、ミズナラ、トチノキなど187本の苗木がストーンサークルに隣接する丘に植栽されました。



植え終わって記念にポーズ

汗が流れます

北秋田市

「四季美湖」に高校生がサクラを植樹

場 所 北秋田市森吉「四季美湖」

実施主体 グリーンメイク清流を守る会

グリーンメイク清流を守る会では、「サクラを植えた一人ひとりが環境の大切さ、自然の美しさに関心を持ってもらい、地域の活性化や観光客を増やし、地域の人々とともに森吉ダム四季美湖を守っていきたい。そして、植えた木々が花を咲かせる。その時の喜びを分かち合いたい」と願い、四季美湖周辺にサクラを植樹してきました。

今年は、秋田県立北鷹高等学校の佐藤久和先生が率いる緑地環境科の生徒23名、森吉山水の郷ネットワークやラブリバーネット北秋田の会員など50名の人々が植樹活動を行いました。

残土処理場なのか、植え穴を掘ると直ぐ石に当たってなかなか作業がはからだらなもの、高校生

《6月9日》



伊東さんが植え方の模範を示す。生徒たちは説明を熱心に聞く

石ころだらけで
掘るのに苦労した

植樹をおえてみんなで記念写真に納まる



秋田県水と緑の森づくり税事業 みんなで行動森づくり 2015 活動報告

地球温暖化はじめとする環境問題への関心が高まるなか

様々な森林ボランティア活動が年々活発に行われています。

「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用した活動事例の一部を紹介します。

潟上市

「あきたグリーンサム創造の杜」で森の学校オープン記念行事を開催 《6月20日》

場 所 潟上市天王字細谷長根地内

実施主体 特定非営利活動法人秋田グリーンサム俱楽部

～あきたグリーンサム創造の杜とは～

特定非営利活動法人秋田グリーンサム俱楽部で発行している、「Greenthumb2014年12号」に、「グリーンサムの杜」と題して佐々木吉和理事長が寄稿しています。この文章を引用すると、「グリーンサムの杜は、自然環境を担保しつつ、老若男女の身心の健康、生活文化、教育、農業、緑産業の経済活動、地域のコミュニティ、そして市民一人ひとりの居場所づくりを実現してまいります。」と述べています。

2012年から進められた「秋田グリーンサムの杜」創造プロジェクトは、森遊び・学ぶ「森の学校ゾーン」、多目的広場のある「太陽と緑創造ゾーン」及び農産物加工棟などがある「農産ゾーン」にエリア区分されています。

楽しさ一杯！森の学校オープン記念行事

この度、秋田県水と緑の森づくり税を活用して整備した「森の学校ゾーン」が完成(参考本誌11ページ)し、6月20日にオープン記念行事が開催されました。この日は、地元の小学生の他、農聖と敬われている石川理紀之助の縁で結ばれ、ちょうど潟上市を訪れていた宮崎県都城市の中学生など19名も参加、180名を越える参加者が、数多く準備された体験作業を楽しみました。

この杜に野鳥を呼び込もうと、食餌木として実の生る柿・イチジク・スモモの苗木を植樹したほか、巣箱を作り、出来上がった巣箱は早速森の木々に備え付けられました。

また、秋田スギを材料にしたマイ箸作りに挑戦など、森は子どもたちの声で大賑わいでした。

最後にみんなでウォール手形アートに挑戦、壁に描かれたGreenthumb Treeにペンキを塗った手の平を押し当て、多くの葉っぱが茂る木に仕上げました。



みんなで植樹、全部で180本も植えたよ



森の舞台では巣箱作りに挑戦、都城市から訪れたみんなも頑張って作り上げました

マイ箸作りに挑戦、
カンナで削るところから始めました

出来た巣箱は早速木々に据え付けられました

みんなの手形で創った
Greenthumb treeの前で
記念撮影です

「あきたグリーンサム創造の杜」は、男鹿線出戸駅下車、東側へ約400m程のところにある、マツや広葉樹の生い茂った里山の一画です。杜には、バーゴルフが楽しめる芝生広場や、おしゃれなカフェやレストランも整備されており、各世代の人々が集うことの出来る楽しい杜の公園です。

県民の皆さん気軽にふれあえる整備された「森や水とのふれあい拠点」を紹介します

森林浴リフレッシュの森

留山



設置された木道を、ガイドの説明を聞きながらブナの森に染まっていく



白いブナの肌を見ながら
休憩デッキで一休み

所在地 八峰町八森字水の目地内
事業実施主体 八峰町
お問合せ先 入山は白神ガイドの会へ
TEL 0185-70-4211

森林浴リフレッシュの森

大小屋ファミリーランド



放牧地を見下ろす丘にロッジが建つ



整備された雑木林、
明るい林に変身

所在地 由利本荘市岩野目沢字石森地内
事業実施主体 由利本荘市
お問合せ先 由利本荘市大内総合支所産業課
TEL 0184-65-2216

八峰町

20年を迎えたブナ植樹会 《6月14日》

場所 八峰町峰浜崎「高峰山麓」
実施主体 海と川と空の塾

平成7年に産声を上げた「海と川と空の塾」、今年で20年目を迎えました。「自然と人間の共生」をメインテーマとして、荒廃した森の再生、地球温暖化防止に少しでも貢献出来ればと、平成8年から今まで休むことなくブナを植え続けてきました。

植樹会場は、石川生産森林組合の所有林で、地域の人々に親しまれてきた信仰の山「高峰山」の麓で6年目になります。当日は、200名近くの人々が駆け付けてくれましたが、開会式では、県外から毎年参加している仲間も紹介され、交流の絆がしっかりと根を張っていると感じる一コマでした。

今年は500本のブナが植樹され、これまでに12,500本になります。

参加者の皆さん、結構な急斜面をものともしないで、思い思いの植栽場所へ到着、森づくりに精を出しました。

植樹修了後は待ち望んでいたお昼ご飯。スタッフの奥様方や地元のご婦人方が、だまこもちを作り参加者に振る舞い、労をねぎらいました。



植樹に先立ち、佐々木代表、加藤町長などが20周年の記念植樹と標柱を設置しました

急峻な斜面を
ものともせず、
植樹が行われました



根付くように
ていねいに
植えています



お昼は、手作りのだまこもち

楽しかった！夏休み木工教室 《8月8日》

場所 由利本荘市岩谷町「岩谷児童館」
実施主体 あきたエコマイスター県央協議会

あきたエコマイスター県央協議会では、森林ボランティア活動支援事業を活用し、年間を通して森づくり活動を行っていますが、この日は、子どもたちが木に親しみをもってもらおうと木工教室を開催しました。

会場には20名の親子が集まり、紙芝居「森はみんなのからもの」の読み聞かせや、木が大きくなる仕組みを学んだあと、会員が準備した木片や竹材などを組み合わせ、オリジナルな作品を仕上げました。

この会では、地域の信仰の山「権現山」の森を整備しています。機会があればこの森に遊びに来てください。夏休みの宿題も出来たかな？



工作的前に、まずは木のこと、森のことを勉強しました



何が出来るかな？
真剣に取り組んでいます



さて、何を作ろうかな？



慣れない手つきでノコを使ってます。
「何作るの？」「箸を作りたい」会員もお手伝いしました

みんなで行動
森づくり



ふれあいの森

気軽に森へでかけよう



湧水・名水
の森

ボツメキ農村公園

八塩山の標高約300mの所に、「ボツボツ」と湧き出ることから名付けられたボツメキ湧水地があります。年中水量に変化がなく、日産約900tに達し、東由利地区約4,000人の生活を支える水道の水源となっています。大量に湧き出る湧き水は周辺の森を潤し、ため池へ流れ込みます。

この事業では、駐車場の防護柵や水飲み場までの階段などを整備しました。

春から秋の季節は、多くの人々が大自然が恵んでくれる美味しい水を求めて訪れます。八塩いこいの森、八塩山と一体となった自然公園にしたいとの企画もあります。

名水を求めて多くの人々が訪れる



所在地 由利本荘市松本字蛇喰地内
事業実施主体 由利本荘市
お問合せ先 由利本荘市東由利総合支所産業課 TEL 0184-69-2116

湧水・名水 の森 六郷湧水群・親水公園

「七滝・水の森」に毎年、小学生や町民が植樹を行い、水源の保全活動を行っています。その恩恵を受け、コンコンと湧き出る六郷清水は名水100選に指定され、4万5千人の観光客が訪れ、賑わっています。

この事業では、落ち着きのある木材を使った休憩施設を整備しました。

町では、今後も環境保全に努め、水環境マイスター制度を活用し、人材を育成していくことにしています。



町民・小学生による水源地の植樹

所在地 美郷町六郷
事業実施主体 美郷町
お問合せ先 商工観光交流課 TEL 0187-84-4909



森の舞台では、多目的に活用できる。
秋田スギのベンチも座り心地が良い

学びの森

あきたグリーンサム創造の杜

特定非営利活動法人秋田グリーンサム倶楽部が平成22年度から整備を進めた「あきたグリーンサム創造の杜」の一画に広がる「森の学校ゾーン」は、子どもたちやその家族が自由に里山の自然とふれあうことのできる学びの場として位置づけています。

この事業では、ゾーンの森林整備や森の舞台と名付けたあずまやなどを整備しました。

グリーンサム倶楽部では、森林の維持・保全の大切さを啓発する学習の場や、森のコンサート会場など多目的な活用を図っていくこととしています。(関連記事 6 ページ)

所在地 渥上市天王字細谷長根地内
事業実施主体 特定非営利活動法人秋田グリーンサム倶楽部
お問合せ先 TEL 018-878-2011

ふれあいの森

気軽に森へでかけよう

森林浴リフレッシュの森

松本ふれあいの森

体験農園と果樹園、そして生活環境保全林からなるこの森は、周辺の学校や保育園の遠足として、また地域の人々の散策コースとして親しまれてきました。

この事業では、安全に散策出来るように木柵や階段の補修を実施しました。また、周辺のスギ林の整備に取り組み、開放感のある森づくりに努めました。

秋、赤く色づくリンゴを愛でながらゆっくり歩き、森林浴を楽しんでください。



展望台からは大内の自然を満喫できる



りんご園から
森へ続く散策路

所在地 由利本荘市松本字蛇喰地内
事業実施主体 由利本荘市
お問合せ先 由利本荘市大内総合支所産業課
TEL 0184-65-2216

森林浴リフレッシュの森

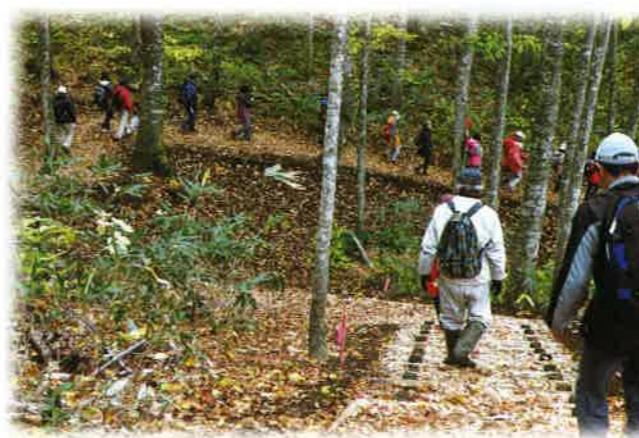
ブナのもり森林公園

乳頭温泉郷一帯のブナの二次林は、手入れが行き届き、四季折々の季節を感じます。

地元温泉組合や旅館業組合が連携し、豊かな自然を取り込んだ行事を行い、2万8千人を目標に観光客の集客に取り出しました。

この事業では、県道194号線沿いに延長5kmの散策路を作り、訪れる方々に喜ばれています。

市では、自然を満喫できる散策路を活用する「散策会」を実施しました。



多くの参加者が集う自然を満喫する散策会

所在地 仙北市乳頭温泉郷
事業実施主体 仙北市
お問合せ先 仙北市農林部農山村活性課
TEL 0187-43-2207



ブナの森へ誘う
散策路



鶴養集落を血管のように
流れれる堰

- ①新緑と白い滝布のコラボレー
ションが美しい「伏伸の滝」
- ②新緑と「舟作」の滝
- ③名水「せせらぎの里の清水」

美しい森と水の山里「鶴養(うやしない)」
なっている。その真偽のほどはとも
かく、根子移住説が似合う山里であ
る。
鶴養集落の最大の特徴は、清冽な
水が流れる「堰のある風景」である。
この水は、引き水として、清流・大又
川から取水され、水田や畑を潤すだ
けでなく、収穫した農作物や農具、時
には洗濯にも利用されている。その
集落内を清流が走る堰と茅葺き民
家、美しい農家の庭、集落周辺に広が
る田畠と屋敷林、背後に聳える緑の
山々は、今に残る秋田の原風景その
ものである。

鶴養集落を過ぎて、大又川沿いの
林道を走ると、ほどなく新緑と白い
滝布が美しい「伏伸の滝」がある。昔
は、下流から遡上したマスたちが、
この淵に群れをなして集まつた。そ
んな日、村人たちちは、農作業で使う
「もっこ」を仕掛けてマスをたくさん
獲つたという。それがために、かつ
ては、「もっこ滝」と呼ばれていた。
左岸沿いに殿渕から伏伸の滝まで遊
歩道がある。

「伏伸の滝」から300mほど走る
と、左手に「舟作」の看板がある。堰



呂谷峠

を流れる清冽な水は、木漏れ日を浴
びながら、淡い新緑を映す鏡となっ
て流れている。その先に「舟作」と呼
ばれる庭園のよう美しい滝が懸
かっている。ウォーキングで喉が乾
いたら、「せせらぎの里 清水」と呼
ばれる名水で喉を潤す。近傍の岩見
川岬谷峡も含めて、四季折々、せせら
ぎの音を聞きながらウォーキングを
楽しみたい「美しい森と水の山里」で
ある。

美しい森と水の山里「鶴養(うやしない)」



へそ公園の中山峠から鶴養を望む

鶴 養 うやしない

秋田市河辺町・鶴養集落

緑のムラ



菅江真澄は1811年8月、黒沢の勝手明神を拝した後、岩見三内村を巡って呂谷峠、鶴養、殿渕、伏伸の滝、舟作など、岩見三内奥地まで探し、美しい図絵とともに解説文を記している。その一つ「鶴養村」の全景は、現在、へそ公園の高台に位置する中山峠から見渡した風景を描いている。

鶴養のルーツと奇妙な地名の由来は、「地名のはなし」(三浦鉄郎著、三光堂書店)によると、「戸数22軒、北秋田郡根子の佐藤家が狩猟の途次この地を発見し、定住開拓した三百年の古い歴史をもつ。生業は、営林局の山仕事、薪炭作り、山菜採り、農業などで森林軌道は唯一の交通機関である。この谷盆地はかつては沼を形成していたといわれ、地名はこの沼で鶴を飼つたところに起因する」と記されている。

「佐藤家」の木の木は、樹齢300年以上と推定され、佐藤家の先祖が、この地に移り住んだ当時に植えられたものだとい伝えられている。しかし、「河辺町史」によると、佐藤家は南部八戸より移り住んだと記されている。「地名のはなし」に記されている阿仁マタギの里・根子移住説と異

秋田を愛した江戸時代の紀行家・

菅江真澄は1811年8月、黒沢の

勝手明神を拝した後、岩見三内村を巡って呂谷峠、鶴養、殿渕、伏伸の滝、舟作など、岩見三内奥地まで探し、美しい図絵とともに解説文を記している。その一つ「鶴養村」の全

あきた森づくり活動サポートセンターからのお知らせ

貸出資機材の種類が充実しました

皆さんが、森づくり活動、森林ボランティア活動、林業作業体験を行う場合、必要としている資機材に不足がありませんか。

あきた森づくり活動サポートセンターでは、このような活動に要する資機材の貸し出しを行っております。貸出資機材一覧は、当ホームページトップページ、『森林ボランティア』からアクセスして下さい。



あきた森づくり活動サポートセンター →

皆さんの活動をPRしましょう

森づくり活動を行う良い季節になりました。秋田の各地で、様々な森づくり活動が行われています。皆さん方の活動を広くPRしてみては如何ですか？あきた森づくり活動サポートセンターでは、皆さんが企画・実行する活動や、水と緑の森づくり税を活用した活動を取材し、当センターのホームページやこの冊子で紹介します。

取材ご希望の場合は、開催月日、集合場所と時間、連絡先を記載の上、ハガキ・FAX・メール等でお知らせください。



情報誌の発送について

今回は、50名以上の会員のいる団体には、50部を送らせていただきました。さらに部数が必要な場合はご連絡下さい。別便でお送りします。

あきた森づくり活動サポートセンター（愛称：モリエールあきた）

〒019-2611

秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4 プラザクリプトン内

TEL 018-882-5570 FAX 018-882-5571

E-mail: akt-forest@triton.ocn.ne.jp HP: www.forest-akita.jp/



トピックス1

森の案内人が新たに15名誕生



室内講義を受けた後、スギ人工林で測樹の実習



森林・林業体験学習活動実施のため、班毎に話し合いプランを作成

県民の方々が、森林観察や林業体験を行うことによって森林・林業の役割を学ぼうとするとき、その手助けをしてくれるのが「森の案内人」。最近、森林学習体験等に関するイベントへの指導者派遣要請が増加していることから、今年度、あきた森づくり活動サポートセンターでは、森の案内人育成講習会を開催し、新たに15名の「森の案内人」が誕生しました。

講習会は、年3回開催し、森林・林業の基礎知識や林分調査の実習、森林・林業体験学習活動の企画・運営、さらに野外活動時の危険性回避等の知識を学んでいただきました。

各人が個々に蓄積してきた知識に、

今回学んでいただいた知識や技術を加えながら「森の案内人」として活動を行うこととなります。

「森の案内人」を派遣依頼する場合は、あきた森づくり活動サポートセンターへご連絡くださいますようお願いします。



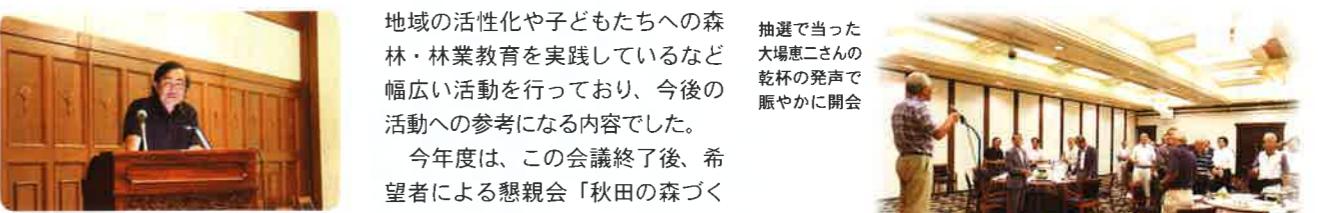
森林観察を指導するための知識を森で学ぶ

トピックス2

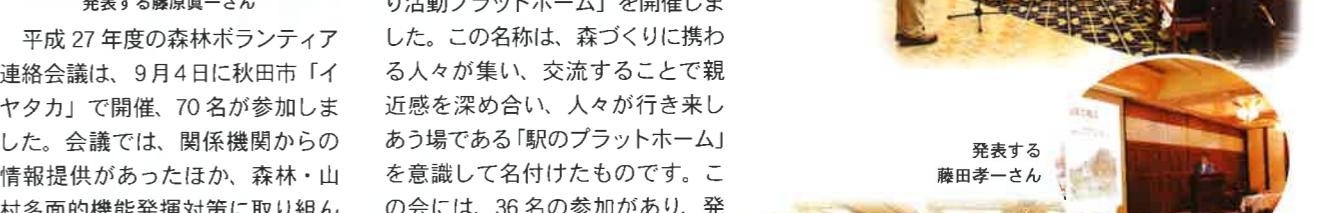
森林ボランティア団体の活動発表会開催



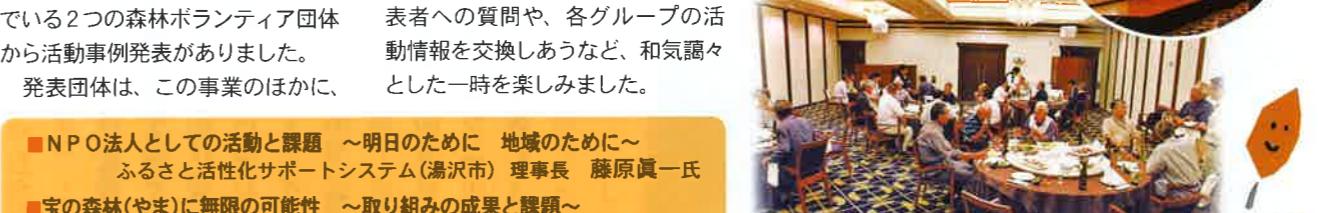
発表する藤原真一さん



抽選で当った
大場恵二さんの
乾杯の発声で
賑やかに開会



発表する
藤田孝一さん



プラットホームで話に花が咲く

■NPO法人としての活動と課題～明日のために 地域のために～
ふるさと活性化サポートシステム(湯沢市) 理事長 藤原真一氏

■宝の森林(やま)に無限の可能性～取り組みの成果と課題～
ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト(能代市) 代表 藤田孝一氏